JETROによる支援
ーブラジルでの取り組み：グローバル・アクセラレーション・ハブ、Scale Up in Brazil

松平 史寿子（JETROサンパウロ事務所 次長）

日本貿易振興機構（JETRO）は、日本のスタートアップの海外展開に向けた各種支援を行っている。これは、日本政府が現在スタートアップ育成5か年計画[1]を定め、ユニコーン企業を100社、スタートアップ企業10万社創出を目指す計画のうちの、スタートアップの海外展開につながる事業に関与している。その一環として、JETROは、経済産業省、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）と一緒にJ-startup事務局を担っている。J-startup[2]とは、ベンチャーキャピタリストや大企業の新事業担当者等の外部有識者からの推薦に基づき、潜在力のある企業を選定し、政府機関と民間の「J-Startup Supporters」が集中支援を行うプログラムだ。

JETROはこの事務局機能に加えスタートアップ向けに各種支援ツールを提供しており、その一つに、グローバル・アクセラレーション・ハブ（以下GAH）[3]がある。これは、海外進出あるいは海外での資金調達を目指す日系スタートアップ企業に対し、ブリーフィング、メンタリングやコワーキングスペースの利用等を無料で提供するサービスである。海外事務所20拠点以上で利用でき、各地のスタートアップ等を支えるエコシステムの状況を踏まえて、現地有力アクセラレータ等と提携し、グローバル展開に役立つ情報を提供している。

2019年から、サンパウロ事務所も本サービスの一拠点として開始。①現地エコシステムに関するブリーフィング、②スタートアップが参入するために必要なマーケット状況を踏まえたメンタリング、そして③スタートアップが希望する関係者へのマッチング、紹介等の支援を実施してきた。またサンパウロのGAHは、他のラテンアメリカ地域にもつなげるハブ拠点的な役割機能も担い、年間のべ20社以上のスタートアップ企業が利用。当地における社会課題、各セクターの状況やスタートアップを支えるエコシステム情報を提供することで、スタートアップが市場参入に向けて検討をすすめる。実際にこのサービスを活用しながら、当地に法人設立をした企業もいる。また、スタートアップからは、他のラテンアメリカ諸国に関するブリーフィング等の相談も受けることもあり、他国の拠点と連携して対応している。2023年後半からはコワーキングスペースも配置予定であり、スタートアップ企業の活動拠点やネットワークの場の機会を増やす。

GAHに加えさらに、サンパウロ事務所は、2022年より新しいプログラムに参画した。それは、ブラジルの貿易振興機関であるApex-Brasil、ブラジルプライベートエクイティベンチャーキャピタル協会（ABVCAP）およびイスラエル貿易投資庁（Israel Trade & Investment）の三者が企画・発案した海外スタートアップ企業のブラジル市場へのソフトランディングプログラム「Scale Up in Brazil」[4]だ。JETROはこのプログラムに、2022年よりシンガポール企業庁（Enterprise Singapore）とともに加わった。

本プログラムはそもそも、イスラエルのスタートアップのブラジル市場参入を目的としてスタートしている。イスラエルのスタートアップにとってブラジルは、魅力ある市場であるものの、商習慣はじめビジネス環境に特徴があり、ブラジル政府を巻き込んだ手法が有効として企画・誕生に至った。一方、ブラジル政府側はこのプログラムを通じて、ブラジルにはない海外のスタートアップの技術を取得すると同時に、これらのスタートアップを支援する海外投資家にもブラジル市場への関心を喚起し、投資を呼び込む契機となる。本プログラムはすでに3回実施され、3か国で企業総数35社が参加。本プログラムを通じて、契約件数13件、法人設立された企業が11社、雇用

Scale up in Brazilの支援プログラムスキームとフロー

出所：Apex-Brasil資料をもとにジェトロが加工（©2023 JETRO）

50人以上が生まれている（2023年6月時点）。

具体的なプログラムは、広報からフォローアップまで約18か月、5段階のステップで前ページの図のプログラムスキーム[5]が提供される。

まず、書類選考を経て第1ステージでは、ブラジルへ進出する際に必要な商慣習、人事、税務といったノウハウをオンラインセミナーで学ぶ。その後ピッチ選考を経て、イスラエル10社、シンガポールおよび日本が5社ずつ選ばれ、計20社が第2ステージに進み、実際にブラジルを訪問し、各セクターの関係者との交流、市場を理解するとともに商談やPoC先、パートナー探しを実施する。自国に戻ったのち、第3ステージでは訪問時に得た情報等をもとにビジネスモデルを検討し、第4ステージで再度訪伯し、新たな商談先等ネットワークを開拓する。第5ステージはその後の商談等をフォローする。なお、プログラム期間中、ピッチトレーニング、マーケットストラテジー立案のサポートや商談アレンジなど様々なサービスを受けることができる。

Apex-Brasilは、本プログラムの実績により農業への持続可能な投資を促進し、食糧安全保障と地球の社会的・経済的発展に貢献したことを評価され、2022年の国連貿易開発会議（UNCTAD）の投資促進賞を受賞した[6]。

Scale up in Brazilへ参加した企業の声

2022年、第1ステージは3か国で35社のうち、17社が日本のスタートアップ企業であった。第2ステージでは、日本のスタートアップ6社がブラジル政府より選抜され（その後1社は辞退）、5社は2度にわたってブラジルを訪問。市場を知るとともに、人脈・ネットワークの構築を図った。選定された5社は以下の通り。

企業ロゴ入りScale Up in Brazilロゴ

出所：Scale up in Brazilサイトおよび Apex-Brasil資料より加工

1. Axelspace（アクセルスペース）

これまでに9機の小型衛星の開発・製造から打ち上げ後の運用までの実績を持つ宇宙ビジネスをリードしてきた小型衛星のパイオニアとして、以下の2事業を展開。

1）小型衛星の開発・製造、調達、運用のワンストップサービスの提供（AxelLiner）
2）衛星画像の販売及び衛星画像を使ったサービスの提供（AxelGlobe）

AxelGlobeの地球観測データは農業、環境、インフラモニタリングなどのサステイナビリティ事業にも活用されている。2008年設立。本社：東京都。

2. Credit Engine（クレジットエンジン）

融資及び債権回収領域におけるデジタル化サービスを提供しており、日本においてはメガバンクを始めとする大手金融機関への提供実績あり。近時は東南アジア、ラテンアメリカ地域へのサービス展開を進めている。2018年設立。本社：東京都。

3. dreamstock（ドリームストック）

プロサッカー選手を目指す若者73万人以上のユーザーを有するプラットフォームアプリ。ポテンシャルの高い選手とクラブチームユースのマッチングを行う。世界各国のリーグでプレーするプロ選手に対しても世界中のクラブチームで活躍できるチャンスを得ることができるウェブ版プラットフォームを運営。ユースとプロを合わせ、既に世界の有名リーグとの契約との200件以上のマッチング・移籍の実績あり。2017年設立。本社：東京都。

4. Melody International（メロディ・インターナショナル）

いつもでどこでも妊婦と胎児の健康状態をモニタリングできるポータブルのスマート胎児モニター「iCGT」を開発。解析データをメールや専用アプリケーションで送信できるシステムの確立により、遠隔で周産期管理ができ、医療機関と妊婦を迅速につなげて医療現場をサポートしている。世界15か国以上で導入開始。2015年設立。本社：香川県。

5. Sagri（サグリ）

衛星データとAI技術で食糧危機や気候変動の課題

解決を行う岐阜大学発のインパクトスタートアップ。新興国地域では、衛星データを使った土壌解析による最適施肥を通じたカーボンファーミング事業を推進。展開地域：シンガポール、インド、タイ、ベトナム、ケニア、ペルー。2018年設立。本社：兵庫県、東京都。

各社のブラジルへのビジネス経験や成熟度が異なるが、以下、本プログラムへ参加した感想・コメントを得た。

1. Axelspace

ブラジルが抱える社会課題解決のためのツールとして、当社は衛星データ利活用のご提案やユースケースのご紹介を実施。また、ビジネスイベントでのピッチ登壇や、農業・天然資源分野等の事業を展開する現地企業との個別ミーティングを通して、具体的なセッションへとつながったことを感謝している。加えて、企業とのコミュニケーションにおいては、現地裨益者とのマッチング検討などJETRO様より厚いサポートをいただいた。今後も当社の小型衛星開発・運用技術ならびに衛星データ利活用を通じて、ブラジルのより一層の成長に貢献していきたい。

2. Credit Engine

ブラジルの市場を知る、さらに具体的なビジネスマッチングを含む、貴重なマーケットエントリのプログラム。また、イスラエル、シンガポール、同じ南米の市場開発を目指している2か国のスタートアップとの交流もあり、多くの学びのある内容だった。

3. dreamstock

本プログラムを通じてブラジル拠点を設置。そのほか、短期間のうちにビジネスを進展させるための重要なネットワークが構築できたことは、自社だけでは実現できなかった成果が得られた。またイスラエル、シンガポールのスタートアップとの人脈ができたことも有意義であった。

4. Melody International

はじめてブラジル市場へアクセスするきっかけとなったこのプログラムで、2度の訪問を通じて医療マーケットについて深く理解でき、かつ業界の大手やキープレーヤーなどとつながることができた。最初の訪問では、ブラジルの商習慣や規制を学ぶだけでなく、医療関連の認証プロセスなど、参入するまでの課題を把握。そして2回目の訪問では、地方の企業や医療機関とのミーティングの設定をしていただいたばかりか、その場でこういう人を紹介してほしいという要望にも柔軟かつ迅速に応えていただいた。その結果、帰国までにPoC先が決まり、かつブラジル市場をよく知る医療コンサルタントや現地パートナーを得た。また、主催者のコネクションを惜しみなく使って紹介いただいた方々からさらに派生したつながりができるなど、現地に赴かなければできない貴重な人脈ができたことは大変有益であった。プログラムは終わったが、これから本格的参入に向けて進み始める中、主催者たちとは今も定期的に意見交換を継続し、なにかとアドバイスをいただけるのは有難い限りである。ブラジルとは何のつながりもなかった弊社だが、参加後にはなんとかやっていけるという自信がつくほど、いたれりつくせりのプログラムであった。

5. Sagri

ブラジル市場の厳しさとポテンシャルを深く理解することができて、非常に有難い経験であった。お陰でブラジル人のプロ人材に出会えた。

各社のブラジル向けの取り組み具合は異なるが、このプログラムはJETRO、Apex-Brasilのネットワークだけでなく、ABVCAPならびに他の貿易振興機関のネットワークも相互に活用する機会となった。ブラジルという大国の大企業につながることは容易ではないが、JETRO自身もこのプログラムを通じて新たな日系社会や新分野へのリーチ、サンパウロ地域以外の新しいネットワークや情報を得ることができ、ブラジ

Japan House（サンパウロ）でのピッチイベントの風景 （執筆者提供）

日系ブラジル起業家協会でのピッチイベント後の集合写真　（執筆者提供）

ルスタートアップやブラジルエコシステム関係者とのネットワークを広げつつある。

ブラジルは多くの移民からなる国である。ブラジルのスタートアップを支えるエコシステムは、その成り立ちと同様、他国のエコシステムともつながりを持つことで、新たな融合やシナジーを生み出しさらなる拡大と発展が見込まれる。このエコシステムを利用してひとつでも多くのスタートアップを含む日本企業がブラジルで活躍することを期待したい。

1　内閣官房『スタートアップ育成ポータルサイト』2023 年 9 月 https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/su-portal/index.html

2　経済産業省『J-startup プログラム』2023 年 9 月　https://www.j-startup.go.jp/about/
J-startup に選定された場合、海外・国内大規模イベントへの出展支援、海外現地支援、研究開発支援、規制改革対応、入札機会拡大、民間企業「J-Startup Supporters」との連携支援などが行われている。

3　JETRO『グローバル・アクセラレーション・ハブ』2023 年 9 月 https://www.jetro.go.jp/services/jhub/

4　Scale Up in Brazil プログラム（2023 年 9 月）　https://www.scaleupinbrazil.com/

5　Scale Up in Brazil『プログラムガイドライン』2023 年 4 月 https://www.scaleupinbrazil.com/_files/ugd/adf390_7d226f6680ff4a59a56c94a019aaaa90.pdf

6　Apex-Brasil「Scale Up in Brazil プログラムに関するプレス発表」2022 年 11 月　https://apexbrasil.com.br/br/pt/conteudo/noticias/projeto-da-apexbrasil-em-parceria-com-a-abvcap-e-israel-trade---.html

（まつだいら しずこ　日本貿易振興機構［ジェトロ］
サンパウロ事務所 次長）

ラテンアメリカ参考図書案内

『フレーヴォ、カポエイラ、パッソ ―ブラジル、ペルナンブーコの民衆芸能研究』

ヴァウデマール・ヂ・オリヴェイラ　神戸 周訳　溪水社
2023 年 7 月　248 頁　3,900 円＋税　ISBN978-4-86327-628-4

著者（1900 ～ 1977 年）はブラジル北東部のレシフェの医師にして芸術雑誌の発行人、劇作家、演出家等多彩な分野で活躍した、ペルナンブーコ州を代表する文化人であったが、またレシフェのカルナヴァルの研究も行い多くの論説やエッセイも執筆している。2012 年に民衆芸能として UNESCO の人類無形文化遺産に登録されたフレーヴォだが、著者はフレーヴォは都市の民衆芸能だが民俗芸能ではないと言う。フレーヴォとそれを構成する踊りのパッソを 50 年以上にわたり観察してきた著者が、その音楽とダンスについてフレーヴォの語源・発生からの歴史的経緯、形態、カルナヴァル団体クルーベの構成、フレーヴォの作曲者と形態論、さらにパッソの由来にブラジルへ強制連行されたアフリカのアンゴラ出身の黒人達が奴隷制度下で農園主や公安当局によって日常的に加えられた暴力から身を守るために武器を使わない防御手段としたカポエイラ術があること、つまり防御のための武術からフレーヴォの演奏に合わせて踊られるダンスであるパッソに繋がったことなどを解明し、往時の社会的状況を考察している。自身も 20 年来パッソを研究対象としてきた訳者による 1971 年刊行の原書の全訳。　〔桜井 敏浩〕